

和歌山だよいい

平成22年
(2010) 1月号



上：神倉神社（新宮市）
左：お燈まつり（神倉山の山頂から
急な石段をかけおりる火まつり）

CONTENTS

1. 知事メッセージ…………… P1
2. 和歌山県政トピックス…P2～P7
3. お知らせ…………… P8～P10
4. ふるさと歳時記…………… P11



「未来に希望を持って」

県民の皆様にご挨拶として新春のお慶^{よろこ}びを申し上げます。

さはさりながら、一昨年の秋以来の大不況は、まだまだ収束はしておりません。県民の皆様もそれぞれに心配やつらさを抱えておられる今年の初春であろうかとも思います。長年の停滞から脱却せんものと、県民の皆様とこぞって巻き返りに転じて、各所に明るい兆候が見え始めたと思う間もなく、世界大不況への突入で、和歌山の試練は続きます。

苦しい中であっても明日が今よりもきっと良くなると感じることができるとき、人々は今の苦しさも耐えることができます。反対に昨日が良かった、今よりもあの昨日に戻りたいと過去に拘泥し始めたとき、今の苦しさはずっとつづいていきます。

我が和歌山には、苦しいときに皆がぐっと頑張っ^てて県勢が発展してきたという歴史があります。紀州五十五万五千石の地位を失った後、ぺっしゃんこにならずに全国に先駆けて産業革命の波を我がものにしたのも、戦後、焼け野原になった中で、これもいち早く産業復興を遂げたのも和歌山なのです。

長年の停滞の中から立ち上がり始めた矢先の大不況は本当につらいけど、つらい中にこそ明日が今日より良い日であることを信じて、また、それを実現するために、明日への希望を抱いて頑張らなければならないと思います。

その反対は何でしょう。あきらめと無気力、自分より少しでも良い位置にいる人への嫉妬^{しつと}とやっかみ、足の引っ張り合い、不公平な方法で人を押しつけて自分だけが良い目に合おうとすること、などなどです。言うまでもなく、このような心の持ちようからは、地域の全体に力がでません。

しかし、大丈夫だと私は信じます。県内の至る所で、明日が今日より良い日になることを実現しようと希望を抱いて、ビジネスに、学業に、社会奉仕に頑張ってくれている人をいっぱい知るようになりました。

県民の皆様が未来に希望を持てるように、平成22年度の新政策は「希望」に焦点を当てて編成していきたいと思っております。そして希望を持って頑張ろうとする県民の皆様を、私も、和歌山県も、必死で支えようと思っております。



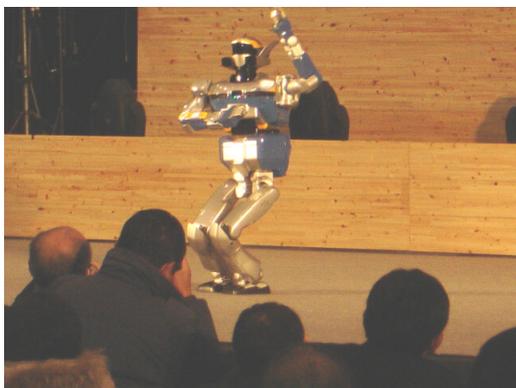
「平成22年
新年名刺交換会」
での仁坂知事。

今月の和歌山県政トピックス

*最近の県政の動きや県内の話題などをピックアップしてお届けします。

●「第3回きのくにロボットフェスティバル2009」開催

- ・12月20日、今回で3回目となる「きのくにロボットフェスティバル2009」が御坊市立体育館において開催されました。
- ・この「ロボットフェスティバル」は、和歌山高専が全国高専ロボコンで2年連続準優勝をしたのを契機に、平成19年度から御坊市で開催しており、県内小中高校生がロボットコンテストに参加することや、全国高専ロボコン優秀校、企業等の最先端ロボットを体験することで、科学技術への関心を高め、将来の日本の「ものづくり」を支える人材を育成することを目的としています。
- ・開会に先立ち、実行委員会会長の仁坂知事は「野球の大会が甲子園であるように、ロボットの大会が御坊で行われるということを目指して頑張っていきたいと考えています。ついにその実現の輪が近畿にまで広がりました。次は全国であります。そして最後は世界中に、この御坊におけるロボットコンテストが認知されるように頑張っていきたい。」と挨拶しました。
- ・きのくに学生ロボットコンテストでは、県内及び近畿の小中学生、県内高校生によるトーナメント競技が行われ、様々に工夫が凝らされたロボットによる熱戦が繰り広げられました。
- ・また、最先端技術を駆使した企業ロボットや高専ロボットのパフォーマンスに加え、中国上海市の上海電機学院によるロボットの実演が行われ、約7,000人の観客が楽しみました。



スーパーロボットショー



高専ロボット



きのくに学生ロボットコンテストの様子

● ～120年の歳月を越えて～

「トルコにおける日本年」式典で和歌山をアピール

・1月4日、トルコ共和国首都アンカラ市にある土日基金文化センターにおいて「トルコにおける日本」開幕式典が開催され、両国友好を祝う関係者約300名が出席しました。

・式典では、120年前に友好の発端となったといわれる本県串本町大島沖で発生した「エルトゥールル号事件」で救助活動を行った住民の子孫を代表し串本町の堀口徳弘氏が、これまで永きにわたって続けてきた慰霊式に込められた人間愛の精神を今後も引き継いでいくという決意と、和歌山が日ト交流の原点であるという自負を込め、スピーチを行いました。（写真はスピーチを行う徳弘氏と長男の徳正氏）



・スピーチ後には、トルコ政府代表エルトゥールル・ギユナイ文化観光大臣が堀口氏親子と固い握手を交わし、ひときわ大きい満場の拍手が送られました。

・また、岡田克也外務大臣、ギユナイ大臣が行った挨拶の中でも、エルトゥールル号事件という悲劇を乗り越えて現在の両国関係が築かれていることが触れられ、友好の礎が和歌山県串本町にあることを強く印象づけることができました。

「トルコにおける日本年」とは

外務省が中心となり、エルトゥールル号遭難事件から120年経過した2010年を日本トルコ友好記念年として両国友好関係の強化を図るものです。12月までの間、トルコ国内において、①日本の魅力に親しむ、②友好の裾野を広げる、③交流を未来へ続ける、ことを目的に、記念式典のほか日本の文化、芸術を紹介する催しを行います。

<参考>外務省ホームページアドレス

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/turkey/2010/index.html>

● 「企業の森」事業に1団体が参画し、52箇所に

・本県が進める「企業の森」事業に新たに「有限責任法人トーマツ」が参画することとなり、1月7日に県庁で調印式を行いました（写真）。

・「トーマツの森」は、トーマツが創立40周年を記念して、創始者ゆかりの群馬県で森林保全活動を開始したのがきっかけです。関西エリアでの活動を希望し、本県に相談があり、この度の企業の森への参画となりました。

・「企業の森」は、今回の有限責任法人トーマツの参画により県内で52箇所となります。県長期総合計画では、100箇所に増やす目標を掲げています。



●「ブラジル和歌山県人会」の青少年が来県

・（財）和歌山県国際交流協会の「中南米海外移住者子弟受入事業」により、ブラジル和歌山県人会の川守田エルトン拓己さん、浦野アンドレ紀太郎さんの2名が12月26日～1月12日の間、和歌山県内にホームステイしました。

・この事業は、中南米に移住した県人の子弟を県内の一般家庭に受け入れ、家庭生活を通じて、日本の風習を理解してもらおうとともに、帰国後は、日本の青少年との継続的な交流を通じて、将来にわたり県人会活動の維持と発展を図るのが目的です。



県庁を訪問した川守田さん（中央右）

と浦野さん（中央左）
・1月7日、知事を訪問した2人は、「餅つきをして楽しかった」「初詣に連れて行ってもらった」など日本のお正月の感想や、「CGやイラストに興味があるのでデザイナーになりたい」など将来の夢を語ってくれました。

●紀中・紀南におけるプレジャーボート対策

・和歌山県の公共水域等（河川・海岸・港湾・漁港）には、約6,500隻のプレジャーボートがありますが、そのうち約5,000隻（約8割）が放置されている状況にあります。

・こうした放置艇等による船舶航行の支障、騒音、違法駐車、ゴミの投棄、景観悪化の問題等が顕在化してきたため、平成12年以降相次いで関係法令等が改正され、公共水域等に係留に関して規制区域を指定できるようになりました。

・和歌山県では、これまでプレジャーボートを収容するための施設整備を進めてきましたが、全ての放置艇を収容できる状況に至ってはいません。

・そこで県は、プレジャーボートの係留保管の秩序を確立することにより、公共水域等の利用の適正化及び良好な生活環境の保全を図るとともに、海洋性レクリエーション活動の健全な発展を図ることを目的に、また、近年、東南海・南海地震に伴い発生する津波来襲時の二次災害の懸念が高まっていることも踏まえ、今年度から紀北地方において法令や条例に基づく規制区域の指定と、係留保管施設の整備に取り組んでいます。

・今後、紀中・紀南地域についても、紀北地方と同様に、規制区域を指定するとともに係留保管施設の整備等に取り組んでいきます。

●平成22年新年名刺交換会開催

・1月5日、今年で3回目となる平成22年新年名刺交換会を県庁の正庁で開催しました。和歌山県産品のジュースで乾杯。会場の後方には「プレミア和歌山」の紹介コーナーを設け、参加者の皆さんをもてなしました。



・仁坂知事をはじめとする県幹部と、県内の経営者、団体の役員などあらゆる分野の方々（約300人）が、始終和やかに名刺交換や情報交換を行いました。

●「和歌山県立総合体育館（仮称）」整備概要（来年9月完成予定！）

・和歌山県立総合体育館の整備について、実施設計が完成しました。

・この総合体育館には3つの機能があります。1つ目は、国体でのメインアリーナにおける体操・新体操・柔道、3競技の開催。2つ目は、建設が待ち望まれている武道場の機能。3つ目は、サブアリーナとしての機能。（国体の開催時には、ビッグホールや新しい体育館で競技を行います。その時の選手の練習場や控え室としての役割を担います。）



黒潮を泳ぐクジラ（既存施設（左）：ビッグホール）があげたビッグウェーブをイメージしています。

・和歌山県では、国体の開催に向け、あらゆる準備を着々と進めています。

【整備概要】

- (1) 階数 地上3階建て 高さ26m
- (2) 構造 鉄骨鉄筋コンクリート（一部鉄骨）造
- (3) 延べ面積 8129.11㎡
 （1階 4876㎡、2階 2817㎡、3階 435㎡）
 ・メインアリーナ 2390㎡、高さ 15m～22m
 ・武道場 950㎡、高さ 5m
 ・サブアリーナ 1040㎡、高さ 7m
- (4) 総事業費 約26億円（設計費含む。）

●県緊急経済対策本部における高卒未就職者対策

「高卒未就職者を対象としたアルバイト職員の臨時雇用」

・平成22年3月高校卒業予定者の就職状況が厳しいなか、卒業後の未就職者の増加が懸念されています。このため、県では、緊急雇用創出事業臨時特例基金を活用し、正規就職への橋渡し（セーフティネット）として、新規高卒未就職者を対象にアルバイト職員を臨時に雇用することにしました。

・今回の取組概要は下記のとおりです。

- 雇用者数：各学校の未就職者の状況及び受入先の状況を勘案し決定。
- 受入先：本庁、県内各地に所在する県の出先機関及び県教育委員会の教育機関
- 雇用期間：原則6ヶ月（最長1年間）
- 業務内容：受入先の職場における行政補助業務
- 就職活動支援
 - ・各職場において、平日、行政補助事務を遂行しながら、所属長の判断において休日（月に数回、無給）を設け、就職活動に取り組んでもらう。
 - ・各振興局等を巡回するジョブカフェ出張相談等を充実。
- 募集及び採用時期
 - ・募集：2月中に各高校でニーズ調査を行い、学校長推せんにより選定。
 - ・採用：平成22年4月1日から

●仁坂知事が県立ろう学校を訪問

・1月14日、知事が、県立和歌山ろう学校を訪問しました。

・和歌山ろう学校には、幼稚部の3歳の子どもから、19歳の高等部専攻科生まで48名が在籍しています。知事は、各学部の授業を参観し、その後、生徒や保護者、同窓会関係の方々に、「県の取り組み」や「知事の仕事」などについて話しました。引き続き「生徒と語る会」では、生徒から「好きな食べ物は何ですか?」「関空発着便を増やすにはどんなPRをすべきですか?」など、幅広い質問がたくさん出されました。知事も、自身の幼少の頃のエピソードを交えながら郷土和歌山に対する思いや生徒諸君に託したいことなど、本音で語り合った楽しいひとときとなりました。



●「ふるさと祭り東京2010」にて和歌山県産品を大々的にPR!

・1月8日～11日に「ふるさと祭り東京2010」が東京ドームで開催されました。和歌山県は、自治体として最大規模となる「わかやま横丁（県産品販売ブース）」を出展しました。（右写真）開催期間中の入場者は19万5千人で、みかんジュースや梅酒、和歌山ラーメン、めはり寿司、梅干しなど県産品を買い求める人で「わかやま横丁」も大変な賑わいでした。



・9日は、会場いっぱいに集まった観客を前に、ステージ上で、包丁一本でマグロを捌くマグロ解体ショーを行いました。その後、和歌山産本マグロ250人前を振る舞うなど、和歌山県が誇る特産品や観光のPRを盛大に行いました。



・11日には仁坂知事が来場し、「わかやま横丁」や全国のご当地食材を使った「ご当地丼選手権」

（和歌山県は、「鯖中とろカツ丼」がエントリー）などに出展している県内業者の方々とともに和歌山を大いにPRしました。またマスコミの取材に対し、「今後も、人が多く情報発信力の強い場所でPRを行い、マスコミを活用して和歌山のよさを全国に伝えていく。」と話しました。

●「2009オリンピックデーラン和歌山大会」開催

・1月10日、「オリンピックデーラン和歌山大会」が、紀三井寺公園陸上競技場と周辺コースで開催されました。

・オリンピック親善大使でアンバサダーを努める、アトランタ大会陸上5位の千葉真子氏（陸上）とシドニー大会背泳ぎ銀メダリストの中村真衣氏（水泳）や4人のオリンピック選手が、親子マラソンに参加したり、その後開催された



トークコーナーでは、会場を大いに盛り上げてくれました。約1,800人の参加者が世代を超えてスポーツを楽しんだ1日となりました。

●本県出身の富田元輝選手が、第58回全日本相撲選手権大会優勝！

・12月6日に東京都両国国技館で開催された「第58回全日本相撲選手権大会」において、本県出身で日本大学4年生の富田元輝（とみた げんき）選手が優勝し、アマチュア横綱の称号を受けました。

・本県におけるアマチュア横綱は、1965、66、67年と3年連続で優勝した野見典展氏、1980年に優勝した元輝選手の父親でもある故富田忠典氏、1983、84年に優勝した久嶋啓太氏（現：田子浦親方）について4人目の快挙であり、また、全国初の親子2代でのアマチュア横綱となりました。



県庁に優勝報告に訪れた富田選手

未来に羽ばたく元気な和歌山の創造に向けて

1月	<ul style="list-style-type: none"> ○平成21年1月以降新たに21社の企業立地が決定(1月～12月) ○「親と子どものきらめき”夢”トーク」を開始(1月～11月で6回開催) ○東京レザーフェアに出展(1月、6月) ○「和歌山フェア」を開催(マレーシア(1月)、台湾(2月)、シンガポール(7月、11月)香港・タイ(10月)) ○食品スーパー等のレジ袋の無料配布中止の取組がスタート ○楽天(株)が運営する「まち楽」に和歌山県PRページ開設 ○シンガポール・タイ現地プロモーション(三重県と連携) ○わかやま喜集館リニューアルオープン ○台湾から南紀白浜空港へチャーター便就航 ○紀の川中流流域下水那賀浄化センター通水 ○「和歌山県景観計画」施行
2月	<ul style="list-style-type: none"> ○「企業の森」新規調印企業・団体が5あり、計51に(2月、3月、5月、7月、10月) ○福祉の総合相談窓口を県庁本庁、各振興局、各市町村に設置 ○公共調達制度改革(実情に応じた新公共調達制度の見直しを実施)(2月、4月、9月12月) ○新行財政改革プランの実施方針を決定 ○日本最大手ジュピターショップチャンネルで和歌山県産品特集(LIVE) ○県産品のトップセールスを実施(2月、6月、7月、10月、12月) ○わかやま産品商談会in大阪を開催 ○2009スーパーマーケット・トレードショーで「プレミア和歌山」発表 ○「美味しんぼ和歌山編」連載開始
3月	<ul style="list-style-type: none"> ○県行政ネットワーク「きのくにe-ねっと」を民間開放 ○「市町村への分権に関する計画」を策定 ○第70回国民体育大会(平成27年)開催準備(開催基本構想決定) ○県内のスポーツ施設と宿泊施設を案内する「スポーツ王国 わかやま 合宿ガイド」を発行 ○ブルネイ・ダルサラーム国へ県内高校生及び大学生を派遣 ○県立知的障害児施設「有功ヶ丘学園」を全面改築 ○わかやまドクターバンク制度により医師を採用し、那智勝浦町立温泉病院へ派遣(本制度による採用は2人目) ○FOODEX JAPAN 2009に和歌山ブースを出展 ○優良紀州材展を東京で開催 ○台湾現地プロモーション(3月、11月)
4月	<ul style="list-style-type: none"> ○「和歌山県教育振興基本計画」策定 ○「和歌山県文化芸術振興条例」を施行 ○「和歌山県観光振興アクションプログラム2009」を策定(4月) ○新型インフルエンザ対策本部を設置 ○妊婦健診費助成を支援(市町村単独実施の5回分と併せ、標準的な14回分を助成)(全市町村で実施) ○特定不妊治療費助成額を拡充(1回あたり助成限度額10万円→15万円) ○「子ども虐待防止基本計画」策定 ○児童家庭支援センターを開設 ○プレジャーボート対策として、紀北地域の放置等禁止区域及び重点調整区域指定の適用開始 ○2009食博覧会・大阪に出展 ○中国・第6回東アジア国際観光博覧会に出展 ○「わかやま田舎暮らしセミナー」を毎月大阪で開催(4月～) ○県立自然公園の抜本的見直しを行い、3公園の新規指定、1公園の指定解除、9公園の区域見直しを実施 ○近畿自動車道紀勢線の整備推進を求める要望活動 ○国による費用便益比(B/C)の点検結果に対する和歌山県意見の提出 ○地方の高速道路の整備推進を求める11県合同緊急要望活動
5月	<ul style="list-style-type: none"> ○「和歌山県農水産物・加工食品の販売促進戦略 アクションプログラム2009」を策定 ○「世界遺産登録5周年記念事業」を展開(5月～11月で7回開催) ○「第62回全国植樹祭」に関して有識者と意見交換するため「紀の国森づくり懇談会」を開催 ○韓国・2009年ハナツアー旅行博覧会に出展 ○「企業のふるさと」スタート(伊藤忠商事(株)、天野の里づくりの会、かつらぎ町、県で覚書調印)
6月	<ul style="list-style-type: none"> ○市町村と県の連携を密にするため、振興局に窓口として「地域別担当者」を配置 ○係長級に昇任した職員94名程度を約1ヶ月間民間企業に派遣 ○「ネットパトロール事業」を開始 ○「わかやま食旅」サイトを開設 ○京奈和自動車道 紀北西道路 起工

未来に羽ばたく元気な和歌山の創造に向けて

7月	<ul style="list-style-type: none"> ○知事が直接県民と意見交換する「和歌山県行政報告会」を開催(7月～) 6市1町で計11回開催 ○JOCジュニアオリンピックカップ・JSAFジュニアユースセーリングチャンピオンシップ ○第62回全国植樹祭和歌山県実行委員会設立 ○ミャンマー国保健省視察団の受け入れ ○育児相談サロンを増設(2カ所→3カ所) ○和歌山県立医科大学みらい医療推進センター開所 ○一日中小企業庁in和歌山開催 ○湯浅御坊道路の4車線化の都市計画手続き開始 ○近畿自動車道紀勢線 南紀田辺～すさみ間 工事着工 ○高速道路料金値下げの影響を受ける南海フェリー和歌山徳島航路の維持を目指し、徳島県と共同で料金値下げを柱とした社会実験を実施(7月～) ○観光施設の従業員等を対象とした接遇研修を実施 10ヶ所 440人(7月～)
8月	<ul style="list-style-type: none"> ○ひきこもり地域支援センターを県精神保健センターに設置 ○水都大阪2009のメイン会場「水辺の文化座」を紀州材で整備 ○南高梅の里を舞台にした「レッド・リナー 紅い梅と蒼い空」連載開始 ○第27回全日本FJ級ヨット選手権大会 ○「2009体験・学び・感動の修学旅行セミナー」を大阪、名古屋で開催
9月	<ul style="list-style-type: none"> ○和歌山農商工連携ファンド創設 ○テザー級ヨット世界選手権 ○刑務所等の矯正施設に入所中の障害者等を対象とした県地域生活定着支援センターを設置 ○自殺対策情報センターを県精神保健福祉センターに設置 ○がん征圧全国大会が本県で初めて開催 ○わかやま産品商談会in和歌山開催 ○和歌山県100年企業表彰(37企業) ○国際見本市に出展(アジア・フルーツロジスティカ2009(香港)) ○食品メーカーとの協働(山崎製パン「ジャイアントパンダパン」・サッポロ飲料「かほり梅」) ○水都大阪2009朝市リバーカフェに紀州材ブースを出展 ○大紀州材祭を東京で開催 ○香港で商談会開催
10月	<ul style="list-style-type: none"> ○中小企業向け県融資制度の見直しを行い、中小企業者の資金繰りを支援 ○「わかやま産品商談会in和歌山」開催 ○和歌山県新技術創出推進条例を施行(10月)し、和歌山県産業技術戦略会議を設置(11月) ○在フランス日本国大使公邸、在ミラノ総領事公邸でトップセールスを実施 ○欧州・トッププロモーション(フランス・イタリア) ○中国・上海に県産品テスト販売ブースを開設 ○観光物産イベント「Leわかやまマルシェ2009in赤坂サカス」を開催 ○新過疎法制定実現和歌山県総決起大会開催 ○消費生活相談員の養成を開始 ○大紀州材祭を東京で開催
11月	<ul style="list-style-type: none"> ○「発明の祭典in和歌山」開催(常陸宮殿下・同妃殿下ご臨席) ○世界遺産と芸術の融合をテーマにした「和歌山県世界遺産公演」を開催(11月～) ○在伯和歌山県人会連合会創立55周年記念式典への参加及びペルー和歌山県人会訪問 ○和歌山県・山東省友好提携25周年記念公式訪問団派遣 ○第1次的高速道路ネットワークの早期連結を目指す9県合同政策提言 ○中国国際工業博覧会に出展 ○食品メーカーとの協働(カルビー(株)「黒煎り七味」) ○中国・上海での日本フェアに出展 ○ジャパンホームショー(東京)に出展
12月	<ul style="list-style-type: none"> ○第3回きのくにロボットコンテストを開催(御坊市) ○「きのくに科学教育シンポジウム」を開催(和歌山市) ○中国山東省と観光交流に関する協定締結 ○和歌山県立医科大学高度医療人材育成センター竣工 ○近畿自動車道4車線化などの道路整備の促進を求める要請 ○一日ジェットロin和歌山開催 ○和歌山県優良県産品(プレミア和歌山)推奨品を認定(第2回)

* 平成21年の歩み(主なもの)を掲載いたしました。(県政トピックスにおいて紹介させて頂いたものもあります。その他詳細については県のホームページ(県政の軌跡)に掲載していますのでご覧下さい)

お知らせ

* これからの季節、海の幸を食しながら、温泉にゆったりつかのはいかがですか？皆さんのお越しを下記キャンペーンで応援します。

☆☆早春わかやま宿泊得々キャンペーン☆☆

～わかやまに泊まって現金3万円をゲットしよう！！～

【対象期間】

平成22年1月20日～3月31日

【応募条件】

キャンペーン期間中に和歌山県内のホテル・旅館・民宿など旅館業法に基づく営業許可を受けた施設に宿泊した人の中から、抽選で400名に以下の賞品をプレゼントします！！

- ① 現金3万円（100名）
- ② プレミア和歌山認定商品【3,000円相当】（300名）

【応募方法】

右下「応募用紙」欄に必要事項を記入し、宿泊施設にて宿泊証明を受けたうえで、当該カ所を切り取り、ハガキ裏面に貼付し当連盟あてに送付して下さい。（平成22年4月12日（月）消印有効）

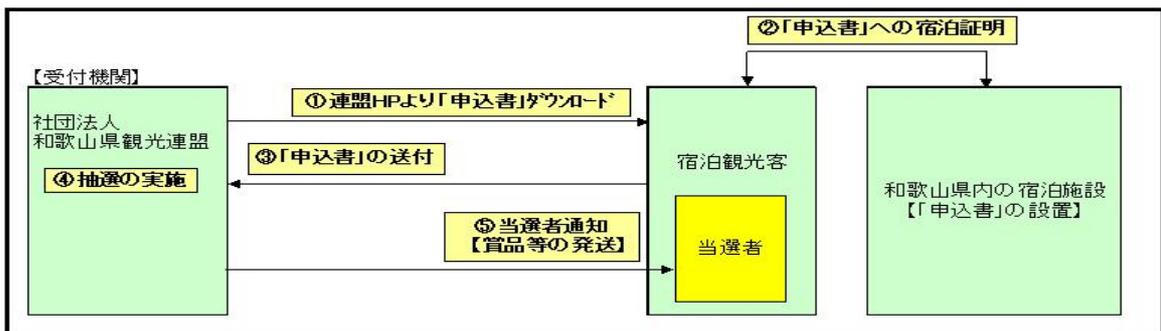
〒640-8585 和歌山市小松原通1-1 社団法人 和歌山県観光連盟 早春わかやま宿泊得々キャンペーン係

※応募の際に記入された個人情報は、当連盟にて適切な管理のもと、本キャンペーンの目的に限り利用いたします。

【抽選・当選発表】

発表は、キャンペーン期間終了後に実施する抽選にもとづく賞品等の発送（4月下旬予定）をもってかえさせていただきます。

【制度利用の流れ】



【ハガキ表面に添付のうえ送付下さい】

〒640-8585

和歌山県和歌山市小松原通1-1
和歌山県庁観光振興課内

社団法人 和歌山県観光連盟
早春わかやま宿泊得々キャンペーン係 行

応募用紙 【ハガキ裏面に添付して下さい】

切り取り線

ふりがな 氏名			
住所	(〒 -)		
電話番号		年齢	
以下のアンケートにご協力下さい。（該当するものに○して下さい）			
①宿泊得々キャンペーンを何で知りましたか。			
1 連盟HP 2 新聞 3 ラジオ 4 口コミ 5 その他()			
②この度のご訪問の主な目的をおしえて下さい。			
1 観光 2 温泉 3 グルメ 4 仕事 5 その他()			
宿泊施設 証明印	確かに上記の者が宿泊したことを証明します。 (宿泊年月日:平成22年 月 日～ 月 日)		
所在地 宿泊施設名 代表者名 又は 担当者名	印		

わっ! が山ほど和歌山県

～ 悠久の歴史(熊野速玉神社・神倉神社)、文化人(佐藤春夫)

グルメ(めはりずし・さんまずし) 新宮市 ～

熊野速玉神社

・熊野三山の一つ、熊野速玉大社。その地を新宮と言いますが、その地名の由来は？昔熊野の神々が、まず最近に降臨したとされるのは巨岩(ごとびき岩)。その岩をご神体として、創建された神倉神社。後に神様を熊野速玉大社に移し祀ったので、人々は神倉神社の方を「元宮」、速玉大社の方を「新宮」と呼んだことからです。

神倉神社・お燈まつり(表紙写真)

・熊野の神々が、降臨した巨岩のご神体「ごとびき岩」のある神倉神社。源頼朝が寄進したという538段の急な石段を上がると、ご神体「ごとびき岩」が太平洋を見据えています。「お燈まつり」は、毎年2月6日夜に行われる神倉神社の例祭。その歴史は古く、古代以来の熊野山伏の伝統をもっています。白装束に荒縄を締め、ご神火を移した松明をもって、神倉山の山頂からかけおります。「お燈まつりは男のまつり山は火の滝、下り竜」(新宮節)と唄われる壮観な火祭り。火の洗礼を受けるものとして始められたもので昭和39年には、県の無形民俗文化財に認定されました。お燈まつりのPRや伝統文化の継承などの願いをこめて、新宮駅前に、お燈まつりの上り子像(親子)のブロンズ像(右写真)が設置されています。



佐藤春夫

・新宮城を舞台に「わんぱく時代」を書いた文豪「佐藤春夫」。明治25年に新宮市で生まれ18才まで過ごしました。当時の新宮は、大石誠之助などの文化人が活動していて、また父も文芸に造詣が深く、恵まれた環境で春夫は成長。上京後、慶応大学に入学、その後、谷崎潤一郎に推挙され文壇に。芥川龍之介と並んで時代を担う2大作者と評されました。

めはりずし・さんま姿ずし

・佐藤春夫は、故郷で一番美味しいものは「めはり」で、2番目は「さんま」だと語っていたといわれています。「めはりずし」は、漬け物のタカナの葉でごはんをつつみこんだもので、両手でつかんで大きな口を開け、目を張って食べたことから「めはりずし」の名がつけました。素朴な味で特に野外で食べると格別です。三陸沖から寒流にのって熊野灘に南下してくる「さんま」は身が引き締まり脂も落ち、お正月には最高の寿司魚として珍重されます。さんまの姿寿司は、柑橘酢で締めたさんまの甘みが口いっぱいに広がるお勧めの品。なれずしや本なれずしがお好みの方には、30年もののさんまの本なれずし等もあります。

新宮市ホームページ <http://www.city.shingu.lg.jp/>

～編集後記～

新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

早いもので、平成22年を迎えて、早2週間余りが過ぎました。

年末年始は、和歌山に帰省されておられた方も大勢おられるのではないのでしょうか。

1月11日の成人の日には、県内各地の市町村で成人式がとり行われました。新聞報道によりますと、和歌山市の「はたちのつどい」には、新成人約2,400人が出席したとのことでした。

今年20才を迎える皆さんは、全員が平成生まれで、その若者達が歩んできた平成の20年間は、いわゆるバブル経済の時期から始まり、一昨年の米国のサブプライムローン問題、リーマンショック等を契機とした世界的な金融危機、そして雇用の悪化、デフレ問題など経済的に大きな変化に見舞われた時代でした。

新成人となった方々は、こうした状況の中、現実を見つめ、非常に堅実な歩みをさせている人が多いのではないかと思います。

和歌山県でも、財政的に非常に厳しい状況の中、仁坂知事を先頭に考え得るあらゆる手段を講じて経済対策や雇用対策等に懸命に取り組んでいます。我々県職員が一丸となり、県民のみなさんが、将来に「希望」を持てるよう、それぞれの立場で突き進んでいかなければと思っています。

季節は、早くも来月には、百花に先駆けて春を告げる梅の花が見頃を迎えます。そして、少しずつ春めいてまいります。

今年も、職員一同頑張ってまいりますので、和歌山を応援下さいますようお願いいたします。

知事室秘書課長 藤川 崇

★「和歌山だより」Web版を和歌山県ホームページにアップしています。Web版ならではの美しい画面を楽しんで頂けますので是非ご覧下さい。

和歌山だよりに対するご意見・ご感想をお聞かせ下さい。また、皆様がお持ちの和歌山に関する情報をご提供下さい。今後、皆様のお声を紙面づくりに活かしていきたいと考えています。

(下記のFAX(様式自由)、E-Mail等でお願ひします。)

■FAX 073-422-4032

■E-mail e0001003@pref.wakayama.lg.jp

和歌山県のホームページ

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/>

ふるさと和歌山応援サイト

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/furusato/>

*個人情報につきましては、「和歌山だより」の発行以外の目的には、使用いたしません。



2010年(平成22年)1月 NO.22

和歌山県 秘書課

〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通1-1

TEL 073-441-2022